

令和6年度人権教育実施 アフガンで活躍した中村哲氏の映画を鑑賞



第118号
発行 2024年
9月27日(金)
校委会
高田西
新聞委員
編集局
編集局長：田村さくら
新聞委員長：金井 茉優

さら
礼
齋藤 慈生

多くの命救った日本人医師 人権担当功刀先生「視野広め、誰かのために行動できるように」

医師である中村哲さんはパキスタンとアフガニスタンを訪れた際、病に酷く苦しむ住民を幾度となく目の当たりにして日本を離れることを決意した。最初は信頼されず不安に思われる場面があったものの、35年に渡って現地で苦悶する人々に寄り添い続け多くの人が暮られるようになった。そして飢餓や干ばつが進み水すら無かったその土地では、どんな薬よりも食糧や水が必要だと判断し、医師であるにも関わらず自ら学び、7年もの年月をかけて用水路の建設に励んだ。

中村さんの働きによって今では65万人を超える人々の命が支えられている。人権相談室の功刀弓佳先生は、「世界中で起きてい

る事を知ると共に、自分が生活している世界が全てではなく更に視野を広げた考えを一人ひとりが持つてほしい。誰かのためになりた

いたと思う時に率先して行動してほしい」という想いのもと、今年度の人権学習でこの映画を鑑賞することを決めた。また、映画を鑑賞した生徒からは「何かを成功させるにはコツコツ続ける積み重ねが大切だということを知れた。中村さんの行動力のおかげで環境が一変し、凄い人だと思った」との声が聞かれた。



人権映画を鑑賞する生徒の様子



中村哲さんの関連書籍は数多く出版されている

この機会を通じて上田西高生は世界で起きている様々な問題や、日本から世界に渡った医師として大きな功績を残した中村哲さんについてより深く知ることができた。世界の情勢が不安定になりつつある現代において、これから更に世界

の状況に目を向けて幅広い考えを持ち、自分ができる事を見つけ多くの社会の問題に手を差し伸べられるようになることが求められる。

「この映画をもっと多くの人に観てもらいたい、ぜひ上田でも上映したい」と思い、実行委員会を立ち上げた。今回のような活動は初めての試みであり、「上映会を行い、どのくらいの人に来てくれるのか、どうしたら多くのの人に観てもらえるのか」と不安でありながら

今回人権教育で鑑賞した「劇場版 荒野に希望の灯をともし」は、全国各地で上映され、この映画の上小地域上映実行委員会が主催となり今週末の29日(日)に上田市でも市の文化会館で上映会が行われることが決まっている。

実行委員会事務局の佐野美和子さんと石谷三知子さんは元々中村さんの活躍を知っており今年の1月に松本で行われた上映会に参加した。そこでこの映画をもっと多くの人に観てもらいたい、ぜひ上田でも上映したい」と思い、実行委員会を立ち上げた。今回のような活動は初めての試みであり、「上映会を行い、どのくらいの人に来てくれるのか、どうしたら多くのの人に観てもらえるのか」と不安でありながら



映画「荒野に希望の灯をともし」上小地域上映実行委員会事務局の佐野美和子さん(写真右)と石谷三知子さん(写真左)

上映実行委員会結成 上田市でも29日(日)に文化会館で

も「チケットが少しずつ売れていったことがとてもうれしかった」という。この映画を観ることを通じて石谷さんは「今の世の中ではそこまで自分を犠牲にして人に尽くすということが少なく、やり遂げるまでには多くの障害があったと思うが、そこを乗り越え人のために尽くす力、原動力のすごさを感じてほしい」と話した。

佐野さんは「日本との文化や捉え方、宗教や環境が違ってもそれはそのまま違う部分は違ってもよいと認めたくなくて命が一番大事ということを中村さんは現地の人たちと共有して活動されてきた。それが大切なことであり、本音の平和につながるかなのだ」と話した。

(齋藤 慈生)